

月刊  
monthly

[月刊 デイ]  
http://daybook.jp/

# DAY

VOL.190

10 2015  
月号

特集

加算取得&利用者の「できる」が増える!

## 活動・参加がグ〜ンとアップ!! 具体的トレーニングと 環境の工夫



施設紹介

### 「参加」の働きかけに 力を入れているデイ

- 株式会社 ユニティ
- デイサービス けやき通り

別売 10月号  
対応版

お役立ち  
ツールCD

定価600円  
(+税、送料別) 発売中

創作人形/石井美千子  
(タイトル:けんか)



# 人間だもの

## 第7回 がんは最もありふれた国民病

日本人の2人に1人が、一生のうち一度はがんになります。そして3人に1人はがんで死んでいます。今、この記事を読んでいるみなさんも50%の確率でがんになります。あまり実感が無いかもしれませんが、紛れもない現実です。がんは最もありふれた病気。珍しくもなんともありません。しかし、いざ自分ががんが見つかったらみなさん大騒ぎです。

「どうして私が」「なにも悪いことしていないのに」「死ぬのかなぁ」と右往左往します。がんセンターの一番偉い先生でさえ、「がんセンターの医者ががんになって初めて分かったこと」という本を書いています。「じゃあ、今まで患者の気持ちを分からずにやっていたの？」と突っ込みたくもなります。人間は、なんでも自分だけは例外だと思っています。自分だけはがんにならないし、死なない。それくらい楽観的なので、少々つらいことがあっても生きられるのが人間なのかもしれません。

実は、認知症とがんは共通の土台を持っています。それは糖尿病です。糖尿病を患っていると、がんにも認知症にもなりやすいのです。介護の現場の方にも糖尿病の方がおられますが、健診で血糖値が高ければ放置しないで必ず治療してください。それががんや認知症の予防への第一歩です。

さて、この3年ほど、「がんもどき」とか「がんは放置したほうがいい」という本が軒並み売っていますが本当でしょうか。認知症がひどかったり、もう90歳を超えているのであれば、放置したほうがいい「がん」はいくらでもあります。しかし、もし50歳代や60歳代で、十分助かる範囲のがんであれば、助かる命は助きたいもの。一方、「がんもどき」はあるのでしょうか？ 実はいくらでもあります。国民的支持を得ている近藤誠理論の真偽に興味のある方は、近著、「長尾先生、近藤誠理論のどこが間違っているのですか？」（ブックマン社）を是非読んでください。



長尾クリニック院長  
長尾 和宏 ながおかずひろ

1984年東京医科大学卒業、大阪大学第二内科入局、1995年兵庫県尼崎市で開業、外来診療と在宅医療に従事  
日本ホスピス在宅研究会理事、日本慢性期医療協会理事、日本尊厳死協会副理事長、関西国際大学客員教授、東京医科大学客員教授(高齢総合診療科)、「病院でも家でも満足して大往生する101のコツ」など著書多数